

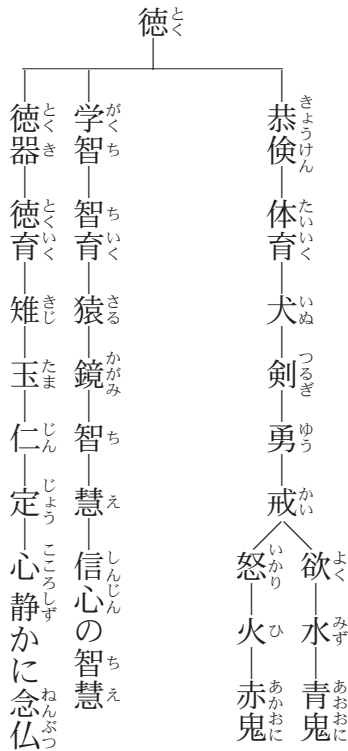
## 25、 成就徳器

教育勅語には「徳器を成就す」と示してある。敗戦以来拝読は禁止されてあるが、この徳目を忘れては人格の完成を期する事は出来ない。日本人は案外、腑抜けが多い。日本の美点まで失うて自由主義、民主主義と唸っている。自己の品性を向上させ、自

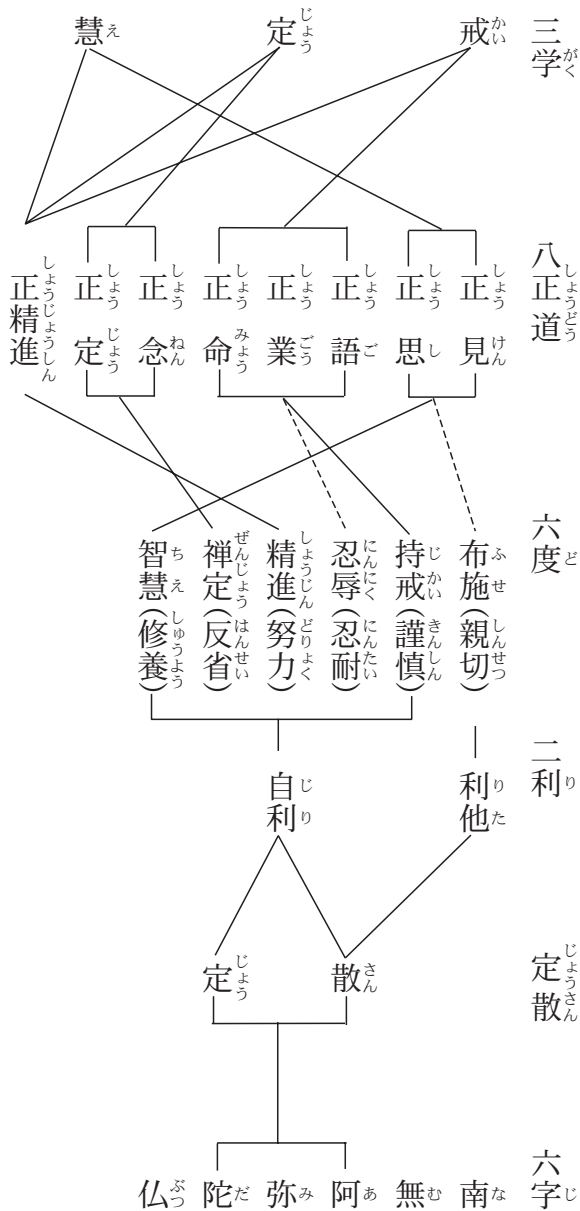
己の人格を涵養し、自己の使命を果たしてこそ社会国家に貢献し、世界の平和に寄与する事が出来るのだ。自己を見失うて醉生夢死する事が何が自由主義だ。上下無差別で上長を軽んずる事が何が民主主義だ。一切の完成は先ず自己の完成からだ。

徳とは 人々よ直き心になれ、神仏に恥じない心に成れと教えた文字だ。それを何時の間にか間違えて徳川の徳の字に変化したのだ。徳とは功德、隱徳、徳本と続く字であつて、功德とは善根、慈悲、奉仕と言ふことであり、隱徳とは他人の見ない処で世の為、人の為になる行為をして置く事であり、徳本とは聖人は「善本徳本は弥陀の名号なり」と仰せられてあるから、名号を諦得すれば自然の徳として徳器を成就する事が出来るのだ。撰諸善法具諸徳本の名号を聞信すれば 無辺の空間と無限の時間の光明無量壽命無量と一体に成つたから、此の真理を中外に施しても行詰りがなく古今に通じても誤りがないのだ。日本に通ずるが諸外国には容られないのは真理ではないのだ。昔はよかつたが今は悪いでは真理とは言えないのだ。東西古今に通じて普遍不滅のものこそ真理と言えるのだ。十方に偏して行詰りのない真理を八紘一字と言ひ、三世を貫い

て障りのない真理を天壤無窮と言ったのだ。それは名号を聞信することであり、徳器を成就することであり、精神の満足することによって人格の向上は得られるのである。徳と名号の関係を图示すれば



教育勅語を貫く精神は徳の一字である。徳を開いて恭儉持己は自分を引き締め、  
 我儘な行いを慎む肉体的の体育となり、学を修め行を習い以て智能を啓発するは智育に  
 当り、徳器を成就するは德育に当るので、人間は体育によって鍛錬して置かなければ



役に立たず、智育によって教育されておらねば文化に遅れるし、徳育によって浄化されていなければ人道に外れるし、この三拍子が揃わなければ人格を完成する事が出来ない。

こんな教育者を指導する体育、智育、徳育の言葉では、幼稚園の子供には理解できないから、犬と猿と雉の三つの動物で教え、中等学校の程度に成った者には剣と鏡と玉の三種の神器で指導しなければならぬのだ。更に進んで道徳学者や心理学者には勇と智と仁の三徳で語り、宗教を聞く方々には戒と慧と定の三学を以て教えたならばよく理解出来るのだ。

その程度の知識を以て指導することが対機説法と言うのだ。幼稚園児に智仁勇の三徳を語るのには猫に小判だ。

戒とは戒める、何を戒めるのだ、我々の慾と怒と愚痴とを戒める。慾とは心の上に欲する、欲しがる、何を欲しがる、名誉と財産と色欲と食欲と睡眠欲の五欲に心を狂わされているから制御する、戒める引き締める、この欲は限りがなく底が知れない、恰も

水が物を潤す如く而も深さが知れないから青い、青いから青鬼と教えたのだ。此の慾を満足し切らない時が怒、怒とは心の上に奴と書いてある。あの奴が邪魔する、この奴がおりさえしななければと心の中で殺している姿が怒であり、激しい事は火のようであり、真っ赤になるから赤鬼と言ったのである。愚痴の痴の字は智慧が病気に掛ったと言う字で、正しき判断を失う、蒔いた種を知らず業が報うて驚いて、こんな筈ではなかつたがと不平で世の中を呪うているのが愚痴である。

鬼は何処にいるのだ。死後にのみいると思つたら、大間違いだ。自分の心が鬼なのだ。鬼と言う字を宛字で書いたら遠仁だ、仁に遠ざかり、情けに遠ざかり、無慈悲な心が動いているのが鬼だ。その心を征伐して（戒）信心の智慧に入（智）って心静かに（定）念仏して金銀珊瑚のお浄土に参り、祖先の方々と対面せよと言う事を、お伽話にして鬼ヶ島の征伐、金銀珊瑚の宝物を持つて帰る桃太郎の話に転化したのだ。

この三学を八正道に合合わせてみると、正語、正業、正命の三は戒に当り、正念、正定の二は定、正見、正思の二は慧に当り、正精進は戒、定、慧の三学に通ずるの

である。

更に三学と六度との関係は、持戒は戒、禅定は定、智慧は慧、精進は戒、定、慧の三に通じ、布施と忍辱には相当するものはないが強いて当てれば、布施は慧に忍辱は戒に治めてもよいと思う。

更に六度は定散二善に納まり、六字の名号に納まる。六字を開けば定散二善、六度万行、八正道、戒定慧、八万の法蔵ともなる。巻き上ぐれば六字の名号、受け取れば徳器を成就することになり、受け取らなければ名号とは無関係で流転を続けなければならない。浄土真宗は眺めて有難がる宗教ではない。受け取って喜び、味わって楽しむ宗教でなければならぬ。